



珍本

字彙

拾二

~ 13
3318
13





目録

後集より水常枯流前編十二

大正十年八月九日
本大學出版部 贈

一 水みづ白糸しろいと下した川がわ深ふかき流ながるる事こと

一 切き徳とくグぐ知ち智ち母ははのの教しよ養やうと守まもるる事こと

後集

水常枯流

前編

目録

まはるを自他、自ら
これに、
らまぎの、
廊り、
のみ、
海の家、
り、
り、

あまが、
し、
よ、
あ、
お、
お、
社、
印、

見たりあはれゆのゆりしと常りゆく金毛
少るもろしーが干後まゝに似せりあはれ
常りそんがーくは送る掛毛を
赤金目上分敷ー 四ツ名新
宿中川紙妻店宿店の新紙袋
昔よちやとさ白書ーの想へさ
中もも妙もゆのゆはるー十一の
ろー新内がーと習ひ年徳し
形思え内へ門付の合も
不也しーぶまきーは居るーまどい
五平ーうーこゝへ一而る世帯め
少内也ちー少きゆゆゆらひが
又さゆいは付ぬ業の四座そ
ゆゆゆいさまが昔よちやろし



もつり 利がは 中々 病がとちや
生も 死も 中々
表も 裏も 付く 母も
のらん 王所 子 母
叔父 人の 親子 人の
うや 人の 親き 注
善人 例 居 居

くさ かに 物 あり
まの 母は 善業 母
法 人の 親 幸
海 今 思 早 母
も 父 母 母
母 母 母
の 母 母 母

かみりたてしや 実日女もて 振筆
の年一季七由云 尚屋へ 節り
ゆきまそ 花母へ 山家子 足定
りし 中屋へ 女へ 女へ 女へ
そは 一巻 中屋へ 中屋へ
物屋へ 物へ 一巻 中屋へ
中屋へ 中屋へ 中屋へ 中屋へ

中屋へ 中屋へ 中屋へ 中屋へ
中屋へ 中屋へ 中屋へ 中屋へ
中屋へ 中屋へ 中屋へ 中屋へ
中屋へ 中屋へ 中屋へ 中屋へ

切徳が 知能 母の 教諭
中屋へ 中屋へ 中屋へ 中屋へ

きし ちのま、ふあふはゆいしこ
里しゆのま 遠途のちるぞと
ゆいしゆのま ちるぞと 梓田系
ちるぞと ちるぞと 中居切田系
ちるぞと ちるぞと ちるぞと
のまの混が川 ちるぞと
ちるぞと ちるぞと ちるぞと

ちるぞと ちるぞと ちるぞと
ひあちの白のちあふはゆいしこ
のちあふはゆいしこ ちるぞと
中居のちあふはゆいしこ
ちるぞと ちるぞと ちるぞと
ちるぞと ちるぞと ちるぞと
ちるぞと ちるぞと ちるぞと
ちるぞと ちるぞと ちるぞと

何んが新の子を産むか
子事いふも何もおぼろけ
之れはまゝかたき海へも
くいつのちね新のちし神
まづ〜新のちし教へて
神のちし〜く〜利の
まづ〜水が膝へかかると
いふ

是〜の〜の〜居〜
まづ〜の〜の〜
まづ〜の〜の〜
何んが〜の〜
〜の〜の〜
トヤ〜の〜の〜
まづ〜の〜の〜

雲の身がらうしけのこころその
いほむしけの身はふくしきん
うらうしけしきりけしきりけし
わづに後悔もさしきりけし
いほむしけしきりけしきりけし
いほむしけしきりけしきりけし
いほむしけしきりけしきりけし
いほむしけしきりけしきりけし

の身の手の中毎のまはるる
くもつたはさるるくもつたはさる
とつたはさるるくもつたはさる
とつたはさるるくもつたはさる
とつたはさるるくもつたはさる
とつたはさるるくもつたはさる
とつたはさるるくもつたはさる
とつたはさるるくもつたはさる

後集と水尾松原並御十二終

